

教 科		国 語		科 目	古 典 A	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科B類型		
教科書（出版社）			古典A（三省堂）				
副教材（出版社）							
授業の概要			1 古文、漢文の朗読や暗唱をしたり、展開や心情を読み取りながら話のおもしろさを味わったりする。 2 古文、漢文や古典に関連する文章を読んで、現代を生きる我々と古典との関わりについて話し合ったり、意見をまとめたりする。				
授業の目標			古文、漢文を読むことによって古典に触れる楽しさを味わい、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 インTRODakション ・恵心僧都の母 2 インTRODakション ・朝三暮四 3 宇治拾遺物語 ・百鬼夜行			・古文に描かれた人々のものの見方や感じ方に関心を持つ。 ・歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。 ・漢文訓読の決まりについて理解し、それらに注意して音読する。 ・自分の生活に関わりの深い故事成語についてまとめる。 ・話の展開に沿って、登場人物の心情を読み取る。 ・説話の世界観や、登場する人物の特異性について理解する。		
	2 学 期	1 宇治拾遺物語 ・袴垂と保昌 2 論語 ・孔子の人となり ・孔子と政治 3 老子 ・大道廃れて仁義有り 4 莊子 ・混沌 5 今昔物語集 ・姥母捨山 6 漢詩 ・絶句			・話の展開を順を追って理解し、理解したことを説明したり、それについて話し合ったりする。 ・孔子の考えに興味を持ち、現在に照らし合わせて考える。 ・老子の考えを示す場面や比喻を正確に読み取り、その思想を追究する。 ・莊子が主張する思想・考え方を理解し、老子との共通性、儒家との相違性について考える。 ・説話の持つ教訓の意味について考える。 ・登場人物の心情の変化を順を追って理解し、情景や心の動きを説明する。 ・描かれた情景、作者の心情をイメージしながら音読し、そのリズムのよさを味わう。		
	3 学 期	1 十訓抄 ・行成と実方 2 三国志 ・三たび往きて、乃ち見る 3 漢詩 ・律詩			・登場人物の様子や態度から、その性格や心情をとらえる。 ・文章表現の特徴を理解し、一部を現代語に直す。 ・登場人物の立場や関係を理解し、場面状況と登場人物の心情を自分の言葉で説明する。 ・描かれた情景、作者の心情をイメージしながら音読し、そのリズムのよさを味わう。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		話す・聞く能力	書く能力	読む能力		知識・理解
	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしているか。				まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させているか。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けているか。
備 考	3つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）	改訂版 高等学校 現代社会（数研出版）				
副教材（出版社）	新版 テーマ別資料 クローズアップ現代社会（第一学習社）				
授業の概要	教科書に沿って、本文の内容を理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会への認識を深める。				
授業の目標	広い視野から現代社会の基本的な問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について主体的かつ公正に判断、考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。				
年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学習目標		
	1学期	第1編 私たちの生きる社会 第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 生命をめぐる問題 第2編 現代社会と人間としての在り方生き方 第1章 青年期と自己の形成	現代社会の諸課題を通して、社会の在り方を考察する基礎を理解し、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。 倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	2学期	第2章 現代の民主政治と政治参加の意義 (1)民主政治の基本原則 (2)日本国憲法と基本的人権 (3)日本の政治機構 (4)政治参加と民主政治の課題 第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 (1)経済のしくみと市場機構	倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	3学期	(2)財政と金融 (3)日本経済の発展と変化 (4)豊かな生活と福祉の実現 第4章 国際社会の動向と日本の役割 第3編 ともに生きる社会をめざして	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を主体的に探究し、現代社会に対する理解を深め、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
観点別評価	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解
	社会や人間に関わる問題を意欲的に追究し、平和で民主的な社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。		社会や人間に関わる課題を見だし、広い視野に立って多角的に考察し、社会の変化や立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	社会や人間に関わる問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有効な情報を適切に選択して、効果的に活用する学び方を身に付けている。	現代社会の異本的な問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教 科		数 学		科 目	数 学 A	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科		
教科書（出版社）		改訂版 最新 数学 A（数研出版）					
副教材（出版社）		改訂版 パラレルノート 数学 A（数研出版）					
授業の概要		場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。					
授業の目標		数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのではなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率			・ 樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。		
	2 学 期	第 2 節 確率 3 章 整数の性質 第 1 節 約数と倍数 第 2 節 ユークリッドの互除法 第 3 節 整数の性質の活用 第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形			・ 具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。 ・ 整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって 2 つの数の最大公約数を求め、不定方程式の 1 つの整数解を求められるようにする。2 進法で表された数を 10 進法に直し、また、その逆をできるようにする。 ・ 線分の内分・外分を理解する。三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。		
	3 学 期	第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形			・ チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・ 円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2 つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・ 空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方		数学的な技能		知識・理解
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。		事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。		事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。		基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
備 考	4 つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100 点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		理 科	科 目	生物基礎	単位数	2	
学 年		2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科			
教科書（出版社）		改訂版 新編 生物基礎（数研出版）					
副教材（出版社）		改訂版 スタディアップノート 生物基礎（数研出版）					
授 業 の 概 要		教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。					
授 業 の 目 標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標			
	1 学 期	序章―生命の探究― 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき		・生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 ・生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 ・遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 ・生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。			
	2 学 期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布		・多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境（体内環境）であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 ・植生について、その構造や遷移について学習する。			
	3 学 期	第5章 生態系とその保全		・地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 ・生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。			
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		観察・実験の技能		知識・理解
	身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。		簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。		実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行うことができる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。		学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科		保健体育		科 目	体 育	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）					
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）					
授業の概要		各運動の特性を踏まえ、運動の学び方及び体力の高め方の一般原則運動と心身の働きの関係、運動に伴う事故の防止、運動とかかわりのある健康・安全に関する知識などの科学的な理解に基づいて運動を実践します。					
授業の目標		1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。 2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、体育実技において安全と運動効率の向上を目的とし、服装の徹底と自己管理を行う資質を育成します。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	1 体づくり運動 （1）体ほぐしの運動 ア 集団行動（基本動作） イ ストレッチング （2）体力を高める運動 ア 時間走 イ 持久走（新体力テスト） 2 球技選択Ⅰ （1）バドミントン （2）テニス （3）卓球 3 体育理論Ⅰ			・基本的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。 ・主運動を行う前の、正確な体操及びストレッチを学びます。 ・自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。 ・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
	2 学 期	4 球技選択Ⅱ （1）ソフトボール （2）バレーボール （3）バスケットボール （4）ハンドボール 5 体育理論Ⅱ			・集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 ・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
	3 学 期	6 陸上競技（長距離走） 時間走・記録測定 （男子 3000m・女子 1500m） 7 体育理論Ⅲ			・一定の長い距離を走る中で、自分に合ったペースコントロールが分かり、自己記録を更新できるよう挑戦します。 ・運動・スポーツの文化的特徴について学びます。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能		知識・理解
	・運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 ・公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。		・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。 ・課題解決を目指し、工夫している。		・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。		・自己体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。						

教 科	保健体育		科 目	保 健	単位数	1
学 年	2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書（出版社）		現代高等保健体育 改訂版（大修館書店）				
副教材（出版社）		現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館書店）				
授業の概要		思春期から中高年期までの健康に関わる事柄について学ぶとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用の仕方について学びます。また、健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係などを中心に授業を展開します。				
授業の目標		1 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てます。 2 心身の健康や安全に関する問題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付けます。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	2 生涯を通じる健康 (1) 思春期と健康 (2) 性意識と性行動の選択 (3) 結婚生活と健康 (4) 妊娠・出産と健康 (5) 家族生活と人工妊娠中絶 (6) 加齢と健康 (7) 高齢者のための社会的取組		・私たちの心と体は、年齢とともに変化していき、また、健康のために私たちや社会がすべきことも、それにともなって変化することを理解します。 ・生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることを理解します。		
	2 学 期	(8) 保健制度とその活用 (9) 医療制度とその活用 (10) 医薬品と健康 (11) さまざまな保健活動や対策 3 社会生活と健康 (1) 大気汚染と健康 (2) 水質汚濁・土壌汚染と健康 (3) 健康被害の防止と環境対策 (4) 環境衛生活動のしくみと働き		・生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解します。 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあることや、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解します。		
	3 学 期	(5) 食品衛生活動のしくみと働き (6) 食品と環境の保健と私たち (7) 働くことと健康 (8) 労働災害と健康 (9) 健康的な職業生活		・食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解します。 ・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解します。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能	
	・健康の保持増進について関心を持っているか。仲間と協力して資料を集め、意見交換をしている。		・自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。		・適切な生活行動を選択し実践すること必要であることを理解し、問題解決に役立つ知識を身に付けている。	
備 考	3つの観点に基づき、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教 科		外 国 語		科 目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
学 年		2 年		類 型	流通経済科・情報ビジネス科B類型		
教科書 (出版社)		Vivid English Communication Ⅱ NEW EDITION (第一学習社)					
副教材 (出版社)		全商英語検定試験問題集 1 級、2 級 (全商英語検定研究会・実教出版)					
授 業 の 概 要		1 予習時に単語やイディオムの意味を辞書で調べて内容の概要を把握しておく。 2 授業では、予習の段階で分からなかった箇所の説明を聞いてノートを取る。 3 ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。					
授 業 の 目 標		1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばします。					
年 間 学 習 計 画		学習内容 (単元・項目)			学 習 目 標		
	1 学 期	Lesson 1 Pictograms —— Useful Signs on Streets Lesson 2 Fun with Pakkun Lesson 3 Origami Is Not Just a Piece of Paper! Lesson 4 Numbers Talk			・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすことができる。 ・学習のポイントは、進行形・受け身、S+V+C(=現在分詞・過去分詞)、seem to ～、It is … (for A) to ～、It is+形容詞+that-節、S+V+it+C+that-節、S+V+O+O(=名詞節)などである。		
	2 学 期	Lesson 5 The Doctor in the Stomach Lesson 6 Nature for the Next Generation Lesson 7 A Young Man in the Sea Who Made a Change Lesson 8 Streetcars in the 21st Century			・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 ・学習のポイントは、群動詞(受け身)、進行形(受け身)、「時」や「理由」などを表す副詞節、分詞構文(現在分詞)、「推量」を表す助動詞、助動詞+have+過去分詞、詞の働きをする句や節(分詞構文、接続詞に導かれる節)、関係詞(関係代名詞が前置詞をとまなう形)、仮定法過去などである。		
	3 学 期	Lesson 9 The Challenge of Disarmament Lesson 10 Inventing Innovative Things for Society			・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめることができる。 ・学習のポイントは、have [get]+O+過去分詞、完了不定詞、仮定法過去完了、省略、倒置、分詞構文(完了形)、as if+仮定法、複合関係詞などである。		
観 点 別 評 価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化についての知識・理解
	積極的な態度で言語活動に参加し、相手とのコミュニケーションを図ろうとしている。		英語で話し合ったり、意見をまとめたりすることができる。また、情報や考えなどをまとまりのある英語で書くことができる。		英語を聞いて理解し、概要や要点をとらえることができる。また、ジャンルや目的に応じて読み方を工夫しながら、概要や要点をとらえることができる。		単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。また、英語を使う上で必要な文化的背景について理解している。
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		家 庭	科 目	家庭総合	単位数	2
学 年		2 年	類 型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）		家庭総合 ～自立・共生・創造～ （東京書籍）				
副教材（出版社）		家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）				
授 業 の 概 要		（１）人の一生と家族・家庭（２）子どもや高齢者との関わりと福祉（３）生活の科学と環境（衣生活）（４）消費生活と環境（５）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の５項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授 業 の 目 標		１ 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、衣生活、消費生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 ２ 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 ３ 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	○高校の家庭科について １ 経済生活を営む （１）職業生活を設計する （２）計画的に使う （３）国民・国際経済と家庭の経済生活 （４）消費行動と意思決定 （５）現代の消費社会 （６）消費者の権利と責任 （７）これからの消費生活と環境 ○ホームプロジェクトについて		・家庭科で何をどのように学ぶか、学習活動について知る。 ・ホームプロジェクトの計画 ・家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・消費者の権利と責任を理解する。 ・持続可能な生活について考える。		
	2 学 期	○ホームプロジェクトの発表 ２ 衣生活をつくる （１）衣服をつくる （２）衣服の役割を考える （３）衣服を入手する （４）衣服を管理する （５）衣生活の文化と知恵 （６）これからの衣生活 ３ 子どもと共に育つ （１）命を育む （２）子どもの育つ力を知る。		・平面構成と立体構成の違いを学ぶ ・被服製作の基本事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ・被服の様々な役割を理解する。 ・被服材料の特徴を理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。 ・出産前後の健康管理と子どもの発達の様子・発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的生活習慣の形成、健康管理について学ぶ。		
	3 学 期	（３）親として共に育つ （４）これからの保育環境 ４ 自分らしい人生をつくる （１）生涯発達の視点 （２）青年期の課題 （３）目標を持って生きる （４）人生をつくる （５）家族・家庭をみつめる （６）これからの家庭生活と社会 ５ 高齢社会を生きる （１）高齢期を理解する （２）高齢者の心身の特徴 （３）高齢者を支える （４）これからの高齢社会		・愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解し、生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめる。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・家族・家庭の基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 ・家事・職業労働の特徴からワークライフバランスを考える。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の特徴を知り、個人差が大きいことを理解する。 ・高齢者を支援する具体的施策や福祉について学ぶ。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしているか。		人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。		人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けているか。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活、消費生活と環境など、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けているか。
備考		４つの観点に基づき、各学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。				

教 科		商 業		科 目	マーケティング	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		マーケティング（実教出版）					
副教材（出版社）		マーケティング問題集 新訂版（実教出版）					
授 業 の 概 要		企業やその他の組織が提供する商品について、マーケティングに関する基礎的な知識と技術を身に付けるとともに、マーケティングの重要性について理解し、計画的、合理的なマーケティング活動ができるようにする。					
授 業 の 目 標		1 激しく変化する現代市場において、 マーケティングが果たす役割とその意義を理解する。 2 マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得する。 3 マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 現代市場とマーケティング 第2章 市場調査 第3章 消費者行動			・マーケティングの意味とその発展の動向について理解する。 ・マーケティング活動における市場調査の重要性を認識する。 ・企業によるマーケティング活動が、消費者の購買活動にどのような影響を与えるかを理解する。		
	2 学 期	第4章 販売計画 第5章 製品計画 第6章 仕入計画と商品管理 第7章 販売価格 第8章 販売経路			・販売計画は、マーケティング活動の原点であり、合理的な企業活動のためには的確な販売計画が必要であることを理解する。 ・マーケティングの中で製品計画が果たす役割の大きさを理解する。 ・売買業における仕入計画の重要性と、その計画立案の手順を理解する。 ・市場での価格形成のメカニズムを、需要と供給との関係から一般論として理解したうえで、現代市場における価格の種類について理解する。 ・販売経路の概念とマーケティング活動における販売経路政策の位置付けを理解する。		
	3 学 期	検定試験 第9章 販売促進			・全商商業経済検定2級を取得する。 ・マーケティング活動における販売促進の役割を認識し、その方法や種類を理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	・マーケティングに関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して取り組んでいる。 ・マーケティングに関する情報を適切に収集・処理して活用する実践的な態度を身に付けている。		・これからのビジネス社会におけるマーケティング活動の諸問題の解決を目指して自ら思考を深めている。 ・基礎・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫をする能力を身に付けている。		・ビジネスマンとしての基礎的・基本的な技術・表現力を身に付けている。 ・ビジネスの諸活動におけるマーケティングに関する情報を適切に収集・処理するとともに、その成果を適切に表現できている。		・マーケティングの基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。 ・ビジネスの諸活動におけるマーケティングに関する情報の意義や役割を理解している。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。 また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	広告と販売促進	単位数	3
学 年	2 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		広告と販売促進（実教出版）				
副教材（出版社）		広告と販売促進問題集（実教出版）				
授 業 の 概 要		ビジネス活動において、広告と販売促進に関する分野について知識や技術を習得するとともに、ビジネス実習・現場実習の体験学習等を通じて、実践学習を同時に行なう。そして、それらの学習を関連づけ、学習意欲や学力の向上につなげていく。				
授 業 の 目 標		1 成熟した現代市場において広告と販売促進が果たす役割とその意義を理解させる。 2 広告や販売促進に関する知識と技術を体験的に習得させる。 3 マーケティングにおける企業と消費者間のコミュニケーション活動の果たす意義や役割を理解させる。 4 広告や販売促進など販売に関連する活動を主体的、創造的に行う能力と態度を育てる。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	ガイダンス 実習の基礎 1 常識編 ビジネス実習		実習・検定の概要と対策 1 売買取引の計算 2 小売業の役割 3 流通機構の概要 1 実習のガイダンス 2 各店舗での実習 3 実習のまとめ		
	2 学 期	2 販売技術編 3 商品知識編 4 販売事務管理編 5 接客マナー編 城山門前祭販売実習		1 顧客心理と集客 2 商品陳列と照明 3 商品の包装技術 1 商品の定義・評価・要素 2 サービス商品 3 ブランド商品 4 情報・消費生活の法制度 5 国際化と市場の変化 6 販売機能の強化 1 販売事務管理 1 店内の作業・接客 2 お客様のご案内 3 電話応対 4 服装・身だしなみ 5 言葉遣い 6 販売員のマナー 1 実習のガイダンス 2 各店舗での実習 3 実習のまとめ		
	3 学 期	ビジネス文書演習 現場実習 学習のまとめ		1 ビジネス文書の種類・構成 2 文書の作成 1 実習のガイダンス 2 各店舗での実習 1 実習のまとめ		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現	
	日頃から販売実習など体験的学習に興味・関心を持ち、経済社会の動向に着目できているか。		販売促進に関する基礎的な理論を基に、広告の役割について経済理論と関連づけて考察できるか。		ビジネスマナーを学び、実習時に実践できたか。 正確な計算能力の習得や適切な文書作成など、実務に関連付けて考察する能力を身に付けているか。	
知識・理解		広告の役割やその効果が販売促進にどのようなにつながっているか、等の経済理論や販売員活動の仕組み、概念を理解しているか。				
備 考	①定期考査 ②課題・提出物 ③実習評価 ④レポート ⑤お礼状等 以上を総合的に判断して評価する。					

教 科		商 業		科 目	ビジネス経済	単位数	2
学 年		2 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		ビジネス経済（実教出版）					
副教材（出版社）		ビジネス経済 問題集（実教出版）					
授 業 の 概 要		需要や供給などのミクロ経済理論及び景気循環や経済政策などのマクロ経済理論の基礎的な内容を学習する。					
授 業 の 目 標		ミクロ経済理論及びマクロ経済理論の基礎的な知識を習得し、経済の仕組みや概念について理解する。 また、経済事象を主体的に考察する能力と態度を育てる。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 市場と経済 1 節 資源配分のしくみ 2 節 現代の市場経済とビジネス	・市場やビジネスが成立するまでの過程及び市場経済と計画経済の違いを取り扱い、市場経済の特徴について理解する。				
		第2章 需要と供給 1 節 需要の概念と需要の変化 2 節 供給の概念と供給の変化	・需要の概念と需要の変化及び供給の概念と供給の変化を取り扱い、需要と供給の変化の特徴や需要と供給に影響を与える要因について理解する。				
	2 学 期	第3章 価格決定と市場の役割 1 節 価格決定のしくみ 2 節 市場の役割と課題	・価格決定の仕組み及び市場の役割と課題を取り扱い、市場経済における価格決定について理解する。				
		第4章 経済成長と景気循環 1 節 GDP 2 節 経済循環 3 節 物価と実質GDP 4 節 経済成長 5 節 景気変動とインフレーション	・物価の変動による国内総生産への影響、経済成長の要因、景気循環の仕組みなどを取り扱い、我が国における経済成長と景気変動の現状について理解する。				
3 学 期	第5章 経済政策 1 節 財政 2 節 金融	・財政政策と金融政策の概念及び財政と中央銀行の役割を取り扱い、我が国における経済政策の現状と課題について理解する。					
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	日頃から経済に興味・関心を持ち、経済社会の動向に着目できているか。		経済に関する基礎的な理論を基に、経済事象について経済理論と関連づけて考察できるか。		具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察する能力を身に付けているか。		経済理論や経済の仕組み、概念を理解しているか。
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科		商 業		科 目	財務会計Ⅰ	単位数	3
学 年		2 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		財務会計Ⅰ新訂版（東京法令出版）					
副教材（出版社）		完全段階式 標準検定簿記問題集（全商１級会計）（東京法令出版）					
授 業 の 概 要		1 簿記で学んだ知識や技術を基礎にして、株式会社及び財務諸表の作成などに関する知識や技術を習得する。 2 将来、社会や企業の一員としての立場から、財務諸表から得られる情報を活用して物事の判断能力や処理能力などを養う。					
授 業 の 目 標		1 会計の基礎的・基本的な考え方と技術、財務諸表の作成、その財務諸表の活用を理解する。 2 株式会社の会計を記帳処理する知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付ける。					
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）			学 習 目 標		
	1 学 期						
	2 学 期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第1章 企業会計の意義と役割 第2章 会計法規と会計基準 第3章 株式会社の設立・開業と株式の発行 第4章 当期純損益の計上と剰余金の配当・処分 第5章 社債 第6章 株式会社の税務 第Ⅱ編 貸借対照表 第1章 貸借対照表の概要 第2章 資産の意味・分類と評価 第3章 流動資産 第4章 固定資産 第5章 繰延資産 第6章 負債の意味・分類 第7章 純資産の意味・分類 第8章 貸借対照表の作成			・企業と会計、株式会社、会計法規と企業会計制度について、会計に関する基礎的な知識と技術について習得する。 ・会社法による、株式、資本金の内容と株式会社設立の記帳法を理解する。 ・資産、負債と資本、貸借対照表の作成について、貸借対照表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・資産の意味、分類、評価について理解し、具体的な例を用いてその処理法を習得する。また、減価償却については定率法、生産高比例法の特徴及び計算法を、繰延資産については、会社法上の繰延資産を学習する。 ・負債と資本について、それぞれの意味、分類について理解し、具体的な例を用いてその処理法を習得する。 ・資産・負債・資本に関する知識をもとに、区分表示された勘定式と報告式の作成方法を習得する。 ・財産法と損益法に触れ、損益計算の意味と考え方について理解するとともに、発生主義、実現主義などの損益計算に関する基準について理解する。		
	3 学 期	第Ⅲ編 損益計算書 第1章 損益計算の意味と損益の区分 第2章 収益・費用の認識と測定 第3章 損益計算書の作成 第4章 その他の財務諸表 第Ⅳ編 財務諸表の活用 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表の見方			・営業損益・営業外損益、特別損益の概念を理解し、具体的な例を用いて分類や各項目の処理法を習得する。 ・経常損益と特別損益に関する知識をもとに、報告式の損益計算の作成方法を習得する。 ・財務諸表に関する意味、見方、連結財務諸表について、財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的および連結の範囲および連結財務諸表の表示方法について理解する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
	企業会計の意味・役割や制度、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどの会計に意味を持ち、財務会計の学習に積極的に取り組もうとしているか。		企業会計に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、工夫する能力を身に付けているか。		財務会計の基礎・基本的な考え方と技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともにその成果を的確に表現しているか。		財務会計の基礎的・基本的な考え方と技術・財務諸表の作成、その財務諸表の活用を理解しているか。
備 考	「原価計算」とのまとめ取りにより、8月から3月まで実施する。 4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。 また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。						

教 科	商 業		科 目	原価計算	単位数	2
学 年	2 年		類 型	流通経済科		
教科書（出版社）		原価計算 新訂版（東京法令出版）				
副教材（出版社）		完全段階式 標準検定簿記問題集 全商1級 原価計算（東京法令出版）				
授 業 の 概 要		原価計算の基本的考え方と、計算方法および原価計算の記帳法を習得し、原価計算の考え方の方法について理解する。				
授 業 の 目 標		製造業における原価計算および簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解するとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画		学習内容（単元・項目）		学 習 目 標		
	1 学 期	1 原価と原価計算 2 原価の費目別計算 3 原価の部門別計算と製品別計算 ①個別原価計算 ②原価の部門別計算 ③総合原価計算 4 製品の完成・販売と決算 5 標準原価計算 6 原価情報の活用		・原価計算の基本的な事項、製品の製造原価を計算するための第1手続きとしての費目別計算を学習する。 ・第2、第3手続きとしての部門別計算と製品別計算の記帳方法を学習する。製造業の決算について、報告書の作成方法を学習する。 ・原価情報の活用に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学 期					
	3 学 期					
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	知識・理解
	原価計算の仕組みについて学習し、関心を持ち主体的に取り組んでいるか。		製造業の簿記を様々な角度から考察し、それぞれに見合った処理が判断できるか。		原価計算の計算方法、記帳が正しく行われ、学習した内容が適切に行われているか。	製造業と関連づけた会計処理、記帳方法について基礎・基本的な知識が身についているか。
備 考	「財務会計Ⅰ」とのまとめ取りにより、4月から7月まで実施する。 4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。					